

カンガルーシップ活動 就労支援プロジェクト 実施報告書

報告日	平成30年2月1日
主管学校名	滋賀大学教育学部附属特別支援学校
P T A 会長名	石倉 博子

実施概要	主管校	滋賀大学教育学部附属特別支援学校
	交流校	
	実施活動名	①P T A 進路研修会（多機能型事業所からの情報提供）②施設見学（③P T A 進路研修会）
	実施日時	①平成29年6月15日 ②平成29年10月26日 10月31日（③平成30年2月23日）
	実施場所	①本校会議室 ②対象施設（③本校会議室）
	実施目的	多機能型事業所の理解
	実施内容	多機能型事業所からの説明と施設見学
	実施方法	保護者への説明会実施と施設見学
	参加人数	①29名 ②10月26日16名 31日27名

報告事項	内容	<p>①多機能事業所からの参加 QUOCARE（クオケア）、働き教育センター、ポプリン、栗東なかよし作業所、第二栗東なかよし作業所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4事業所の活動状況説明 <p>②施設見学</p> <p>10月26日 第一むつみ園、第二栗東なかよし作業所、メイプル滋賀工場</p> <p>10月31日 マノーナファーム、働き教育センター、伊香立の杜</p> <p>（③グループホームの現状を事業所の方、卒業生保護者から話題提供いただく）</p>
	結果	<p>①参加者からの質疑に対する応答</p> <p>食品を扱う仕事におけるアトピーを持つ人の対応説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接食品に触れない作業等（シール貼り等） <p>家族会があるところの活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期の作業補助（製造物のパック詰め等） <p>②利用者さんの様子や作業所の雰囲気を実際に見て感じることができた。</p> <p>個人では行くことのできない施設を見ることができ、保護者間でのコミュニケーションをとる場がもてた。</p>
	所感	<p>受け入れ人数に限りがあり入所希望数を満たすことができない。</p> <p>子供の能力にあった施設が不十分だと感じた。</p>

添付書類	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ニュース①②（P T A 進路研修会の報告） ・収支決算書
------	---

今回の研修会に参加された方からの感想です(抜粋)。

- ・初めて作業所見学をさせていただき、今までイメージだけだったものが具体的に理解でき、一緒に見学に行った高等部や中学部の保護者の方が質問されていることも大変参考になりました。
- ・障害の程度が重いとそれだけ進路選択の幅がせばまり、グループホームの少なさは聞いていましたが、実際にすごい数の順番待ちや県外にでないと難しいと聞いて将来に不安を感じてしまいます。
- ・事業所の入所できる人数と、入所していると考えている方の人数が違いすぎる(なかなか入れない)のも考えていかないと、と思いました。
- ・作業所の様子を見ながら自分の子供と作業をしている人と重ね、いろいろ想像し、考えました。
- ・何があるのか、やりたいことと出来ることが同じであればいいけれど、どうなるのだろうかなど不安と心配でいっぱいになりました。でも背をむけてはもらえない現実が待っていることを実感し、ちゃんと向き合わないといけないと思いました。
- ・利用者さんが案内してくれたり、感想を発表してくれたりして、どんな子がいるのか、わかりやすく、我が子ならどうなのかと想像することもできて、とても良かったです。
- ・パンフレットやホームページ、あるいは学校に来ていただいて、お話を伺うのと、現場に入らせてもらうのは違いますね。得られる情報量もそうですが、環境を察知でき、とても貴重です。こうして、いくつか訪れるうちに我が子にふさわしい居場所をかんがえていけるように力をつけたいと思います。
- ・個人では行くことが出来ない施設など巡ることが出来て、大変学び知るよい機会でした。また、皆さんとも普段話すことがなかった子どもの将来の事など会話のしやすい場となったので良かったです。
- ・ショートステイなど利用したことがなく、今まで考えたこともなかったのですが、いざ必要に迫られたら・・・今のところ、親が何とかしていますが、この先の事も少しずつ考えていかないといけないと、就労を超えての課題を得た研修会でした。

卒業後の豊かな生活を目指して

進路ニュース

第1回PTA進路研修会

多機能型事業所 プレゼンテーション

少し報告が遅くなりましたが、今年度1回目の進路研修会の報告をします。合わせて情報提供をいただいた4つの事業所も紹介します。



6月15日、多機能型事業所プレゼンテーションを行いました。4つの事業所から、事業所の理念や利用者さんの様子、活動内容等を順番に紹介していただきました。保護者の参加は、プレゼンには29名、昼食会には16名でした。熱心にメモを取ったり、質問を交えながらの参加でした。

今回は大津市から2カ所、守山市から1カ所、栗東市から1カ所の計4カ所の事業所に参加を頂きました。

①『Quocare (クオケア)』(写真↓)

昨年度のこのニュース(5号)でも紹介をしましたが、大津市晴嵐一丁目(石山駅近く)にある、就労移行と就労継続B型の事業所です。開所は平成28年の9月。同法人内のデイサー

ビスや近隣施設へのお弁当の製造・販売・配達の仕事を中心にされています。

あらゆるものと「つながる」ことを支え、「自分で決める」に最後まで寄り添いきる、ことを大切にしておられます。

15:30~18:30まで日中一時支援(16歳以上の青年・成人対象)も開所しており、そこでは曜日毎にカルチャーセンター(ファッション、レジャー、ライフ、ゲーム等)が行われています。

②『働き教育センター』(写真次ページ)

大津市南船路にある就労継続A型、就労継続B型、就労移行を合わせ持つ多機能型事業所です。





活動内容は、ビジネスマナー、SST（ソーシャルスキルトレーニング）、LST（ライフスキルトレーニング）、喫茶、農作業などに取り組まれています。参加者からの「今、何をすべきか？」という質問には、「手先を使うこと、生活リズムを整えること、身だしなみを整えること、季節にあった服装が自分で選べること・・・」等、自分でできることを増やしていくことが大切だとお話がありました。

本校の卒業生も一緒に来校され、“介護の資格を取って、実習に行つて就労を目指している。学校時代は人前で話すことが苦手だったが、アビリンピックに出たり、周

りの人との協力の大切さを教えて持って頑張っている。今回来たのも、人前で話をする練習だと思って来た”と話されました。

事後のアンケートに(1)「働き教育センターですが、スクールバスのようなものはありますか？」

(2)「大津から京都の方にある働き教育センターへ行くことはできますか？」と質問がありました。

→(1)JR 守山駅から送迎バスが出ています。

→(2)大津からでも行けます。活動内容を見て判断してください。

③『ポプリン』(→)

守山市金森町にある、生活介護、就労継続 B 型の事業所です。本校の卒業生も 4 名ほどお世話になっています（昨年度の卒業生もお世話になりました）。古い方では 15 年前の卒業生が今もずっと通われています。

仕事内容は、お菓子班、メンテナンス班、エコ班、喫茶班の 4 つの部門があります。「平成 10 年に、ハンデがあってもなくても働きたい、という思いの者 5 名とスタッフ 2 名で立ち上げた。当時は一人ひとりに合わせた形での利用時間や通い方がありさまざまだった。そんな“ありのまま”を撮影した写真展なども開いたりしている。



B 型から就労された方も 6 名ほどおり、職業センターと連絡を取りながらすすめている」、とのことでした。

情報として、「平成 30 年 9 月あたりをめどに、守山の洲本町に新しく生活介護の事業所を作る予定である。」

→よりはっきりした情報が入り次第、お知らせします。



④『栗東なかよし作業所』（←写真は第二栗東なかよし作業所）

第一と第二合わせて70名ほどがおられます。18歳から60歳の方もおられます。開所して29年の歴史を持つ老舗の事業所です。第一は生活介護とB型、第二はB型、他にもグループホームや相談支援事業所、日中一時支援などもされています。

仕事内容は、第一が下請け作業、メンテナンス作業、創作活動をしています。栗東の工業団地近くで、多くに会社から下請け作業を頂いています。第二では、パンの製造販売（pomona）、下請け作業などをされています。パンの売り上げは年間1千万円だそうです。

「仲間の方々はケンカをすることもある。椅子が飛ぶこともある。しかし、それぞれの思いを聞いて話し合いをする。パニックになる方もいるが、必ず理由があるし、みんな仲間です。」

「障害の重い方にとっては、身の回りのことができるようになることが仕事だと感じる。ちょっとしたこと大事な仕事であり、発達につながっている、と思う。」「地域の方、職員、利用者、様々なボラさんと『みんななかよし』を合い言葉に毎日頑張っている。」とお話しがありました。



（写真は pomona のパン）

《今回参加された保護者の方々からの声を載せます。》

・当初、事業所の特色がわからなかったのですが、4つの事業所の方々からのお話を聞き、パンフレットを読み進め、調べたりしていくうちに、少しではありますが、知ることができ、大変勉強になりました。

・Quocareさん・・・「自分で決める」を大切になさって、クルーさん達が「やりたい」と発したことを叶えておられるところが素敵だと思いました。

・働き暮らし応援センターさん・・・事業内容も素晴らしく、SST、LST、メイク、テーブルマナーなども訓練に取り入れておられるところも魅力的でした。

・ポプリンさん・・・事業も幅広く、季節の行事もたくさんで、ポプリンさんのお菓子作りに関しては、とても暖かさを感じました。とっておき作品展も見に行ってみたいです。

・栗東なかよし作業所さん・・・長い歴史に安定感があり、本当にベテランスタッフさんの上手な関わりのもと、なかよく作業をされている空気が伝わってきました。

・具体的な話を聞くことができ、進路先のイメージを持つことができました。ありがとうございました。

・今回は在籍されている方のお話が聞けたことが良かったです。どの事業所さんとても楽しそうな雰囲気で見学してみたいなあと思いました。

昼食をとりながらの懇親会でもいろいろな質問が出されました（抜粋）。

① 食品を扱う仕事においての、爪を噛んだり、アトピーがある人への対応は？

（なかよし）

アトピーの人もパンを作りたい思いがある。本人が頑張りたい意思があればいずれは・・・。まずは下請けから、しばらく頑張ってパンへ行かせたい・・・。

爪をかむこと事態をやめさせるのではなく、その子の発達段階の中でどう考えるのか・・・。

（ポップリン）

爪かみも度合いによる。そういう方もいるが午前午後で2時間2時間は我慢ができています。手袋をすると大丈夫だったりする。

アトピーは、シールを貼ったり、周辺の仕事をしてもらったりしている。

（クオケア）

周辺業務も含めてお弁当づくりである。爪かみは作業に入るためのルールでもある。どれだけ我慢ができるのか、集団での支援もしていきながら、見極めていくようにしたい。

（働き教育）

周辺業務を中心にしてもらおうようにしている。喫茶部門があるが、ランチではなく、洗いのものやコーヒーをいれたりの仕事を・・・。



② クオケアの日中一時について

成人の方が、仕事が終わってから通うところ。高校生もOK。本人の課題に合っているのかどうか。障害の程度はいろいろである。いろいろな人がいる。作業所の人も就労している人もいる。

金曜日のオタクリエイトはみんなでTVを見ているだけ・・・。つながるきっかけになれば・・・。

③ 親の協力、グループホームの立ち上げは？

（なかよし）

保護者の協力があるからできている。おはぎや梅干しのパック詰めをしてもらっている。お祭りの際は売り子をしてもらっている。

（働き教育）

保護者の協力をお願いしていることはない。不安なときには面談などを実施している。

（ポップリン）

家族会がある。研修会や懇親会が年に4回ほどある。グループホーム建設は助成金をもらいながら・・・。緊急性の高い方から入れたいと思っている。

（クオケア）

保護者の協力は今のところない。LSH（法人）として、住まいの計画もやっていきたいと思っている。

1学期の実習先：見学先（高等部2、3年生）

ワークステーションわかたけ しえんからさき 夢創舎 ノエルしごとの家
桐生園 雇用支援センター パナソニックアソシエイツ滋賀 フレンドマート唐崎店
ヤンマーシンビオシス株式会社 みどりの風 あんふあんカフェ みずほの湯
いしづみの家 ワークショップさかもと 福祉工房 P&P ワークショップ tetote
クオケア

※上記の事業所についても、今後、進路情報としてお知らせしていきます。

卒業後の豊かな生活を目指して

進路ニュース

進路見学会 その1(草津・栗東方面)

今年度は、見学方面を二つに分けて施設見学会を実施しました。どちらにも、多数の参加をいただきました。参加されました方々ご苦労様でした。参加を希望された方が、ほぼほぼ希望通りで実施できたことはよかったですと思います。

今回の通信では、10月26日の報告をします。当日はとても良いお天気の中、保護者16名の参加で行いました。今回はこれまで見学要望の多かった“グループホーム”を2か所入れての見学会でした。

まず、午前中に「むつみ園」へお邪魔しました。ここは昨年度の研修会、「自立訓練プレゼンテーション」時に発表をしていただきました。むつみ園は、「第一」と「第二」があり、「第一」には生活介護、就労継続B型の事業所が、「第二」には、自立訓練、就労移行、B型の事業所があります。



写真①クリーニング現場

写真①は、「第二」の就労移行のクリーニングの作業現場です。「第一むつみ園」には高齢の方が多く、自分のペースでの仕事を大切にして、「第二むつみ園」はクリーニングの作業を中心に、それぞれの持ち味を生かしながら、工賃を上げていくことを目標にしている、とのことでした。

写真②～④はこの10月に開所されたばかりのグループホームです。古民家を改修して6名定員のホームにしました。(栗東荒張にある男性のホーム)



写真②グループホームの外観



写真③ホームの個室の様子



写真④ホームのリビングダイニング

まだ、できたばかりで匂いも新しく“新築の物件”を見学しているようで「キレイ」「スゴイ」という声がよく聞かれました。ホームを見学する中で、いろいろな質問が出されました。

「洗濯はどうするのか」・・・(今は、持ち帰ってもらっている。慣れてきたらするつもり)

「食事は誰がつくるのか」「一緒には作らないのか」・・・(職員が輪番で作っている)。

「お風呂の介助はあるのか」・・・(必要に応じて。その利用者さんの状況で・・・)

「掃除は誰がするのか」・・・(担当の職員がします)

「ホームに戻ってきてからの外出はあるのか」・・・(帰って、お風呂、TV、食事、就寝。場所的にも出られない)

他にも「若い時に離れるほうがいいのか」「ショートステイの体験はできるのか」・・・等々個々にたくさんやり取りがされており、興味の高さがうかがえました。

事業所の理念としては「むつみ園、第二むつみ園を利用する方、関わる方すべての人が体感できる安心と喜びの実現を目指し」ておられます。

2か所目は、1学期に多機能型事業所として発表をいただいた、「第二栗東なかよし作業所」へお邪魔しました。



写真⑤パン工房内

1学期に話を聞いているので「話しを聞いて、実際に見るととても参考になる」と感想が聞かれました。

写真⑤のように、実際にパンづくりをしている現場に入って見学させていただきました。



写真⑥は昼食の焼き立てパンです。(サプライズでパンナコッタのデザートを提供していただきました。)



写真⑥昼食のパン・デザート

基本理念として「障害を持っていても、ともに同じ人間として大切にされ、豊か生きてゆきたい」という願いを基に1997年に設立されました(第二は2004年開所)。第二栗東なかよし作業所は定員40名の就労継続B型の事業所です。パン洋菓子の製造販売、味噌、梅干しなどの製造販売、下請け作業等を行っています。

パン工房は「ポモナ」と言います。“果樹の女神”という意味で、れもんやゆずなども栽培されています。

昼食時には卒業生から今日のパンの説明がありました。「みんなで喜んでもらえるように考えて作りました。」「今日はありがとうございました。いつでも遊びに来て下さい。」と挨拶がありました。



写真⑦栗東ホームの外観



写真⑧ホーム内のリビング

パン製造は朝が早く、朝6時から勤務をされている方もおられました。朝が早いので、すぐ隣にあるグループホームから通勤をされている方もおられます。

ホームは同じ敷地内にあり、現在9名の方がおられます。男性・女性が一緒に生活をされています。30代の方が多く、一人暮らしなども考えて次のステージへと考えるが、なかなか出て行く人はいない・・・ようです。

質問として「施錠はしないのか」「男女で心配はないのか」「指導員はいるのか」・・・等出されました。回答としては、「施錠はしていない。指導員が夜通し居るので、男女でも心配はない。夜中起きる人への対応もしている」。

3か所目は「メイプル滋賀工場」へお邪魔しました。

「社会の一員として自立を目標に、職場を通じて働く意味を教え、指導して」いくことを目標に取り組まれている就労継続A型の事業所です。アルミサッシ製品を、切断→加工→組み立て→出荷されています。

利用者リーダーを中心にした班で作業し、スキルアップを目指します。一人一人が得意な作業を持ち、



写真⑩工場内の見学

「利用している人は居心地がいいようで、やめる人はほとんどいない」とのことでした。質問の中で「どういう流れでここに来るのか」「どういう技術を身に付けてくるのか」ということに対しては「就労移行事業所やテクノカレッジから来る人が多い。12月頃にハローワークに求人を出して、2月頃に実習をして決めていく」「初めから技術のある人はいない。こういう仕事に興味のある人、好きな人が良いと思う・・・」とのことでした。



写真⑪工場内の様子



写真⑨参加者のみなさんと右後ろメイプル外観

苦手な作業を克服できるように教えて、自信が持てるようになっています。

平成8年4月から操業を開始しました。当初から、不二サッシと提携をされており、基本的に“注文製造”をされています。規格品はあまりありません。作り置きをすることができません。そのため、仕事が忙しい時と暇な時があります。

障害を持った方は現在34名おられ、うちA型の利用者は26名です。それ以外の方は、不二サッシから“出向”されている方々です。



写真⑫施設長からの説明の様子

今回の研修会に参加された方からの感想です(抜粋)。

・今回で3回目の参加ですが、見学先の事業所さんでのランチは初めてでした。様子もよく分かり、働いている姿もたくさん見せていただけて良かったです。

・グループホームもどんな所か気になっていたのですが、実際に見学できてとても良かったです。住み心地のよさそうな空間で息子にも将来経験してもらいたいと思いました。

・今回はグループホームを初めて見せていただき参考になり、いろいろと考えることができました。将来の姿を想像するのは、現実をみるようで厳しいこともありますが、甘いことはないと思うのも大切なのだと思います。それでも、そこで頑張っている人を知るのは、少し希望も見えます。

・話やうわさで聞いた事と実際に行って利用者さんの様子や雰囲気を見るとでは、印象が違ってもんだなと感じました。まずはたくさんの事業所を親が見て知ることが大事だと改めて思いました。

・今回は、初めてグループホームを2カ所見学でき、“古民家を改装した”パターンと“新たに建てた”パターンの2種類の中に入ることができ、とても参考になりました。ここまでしてもらえ(できる力のある)事業所は多くないと思うので、利用できるかどうかは運と縁なんだろうなとは思っています。

・事業所さんの努力しておられる姿、そこで頑張って一生懸命生き生きを働いておられる姿を見て、とてもうらやましく思いました。自分の子供に何ができるのか、どんなことが向くのか、そもそも行く先が見つかるのかと色々な事を考えました。

2学期の実習先：見学先(高等部2、3年生)

社会就労センターあおぞら クオケア 桐生園 雇用支援センター

スコラ 第二くりのみ作業所 堀場製作所 ワークショップ tetote

働き教育センター アイ・コラボレーション ワークステーションわかたけ

川相商事株式会社 くれおカレッジ マノーナファーム おもや

クロスジョブ草津 クオリード 滋賀大学 瑞穂

※新しい事業所もできていますが、なかなか紹介できていません。機会を見つけてできるだけ情報をお知らせしていきます。

また、個別の進路相談、個別見学も受け付けますので、担任を通してお知らせ下さい。

卒業後の豊かな生活を目指して

進路ニュース

進路見学会 その2(大津市湖西方面)

今回は、10月31日の進路見学会の報告をします。この日も良い天気にも恵まれました。前回よりも多い、保護者27名の参加で、バスは満員状態でした。

午前中に「マノーナファーム」へお邪魔しました。ここは一昨年度の研修会、「就労移行プレゼンテーション」の時に発表をいただいています。「地域の人達と密着して、地産地消の目的に貢献できる温かいファームを目指して」おられる、就労移行と就労継続B型の事業所です。水耕栽培での“葉物(ほうれん草、小松菜、水菜、ルッコラ等々)”の野菜の栽培、販売などをされています。

は種板を用いての種まき(写真1)→完全自動化で管理された部屋での育苗→ハウスでの定植・栽培(写真2)→収穫・袋詰め→出荷等、いくつかの作業班があるのですが、それぞれの班に利用者リーダーがおられ、その方を中心にしながら仕事が進められています。



器機を使つてのトレイへの種まき(写真1)



ハウス内の水耕栽培の様子(写真2)

(写真3)は、マノーナの向かいある「資生園」就労継続A型の事業所です。真っ黒の光が制限さ



資生園のシイタケ栽培場(写真3)



資生園内部のしいたけの菌床棚(写真4)

れた建物の中は（写真4）シイタケの菌床がところ狭しと並べられています。年間を通して一定の温度と湿度が保たれています。シイタケ栽培（販売）の他にも、地域で使わなくなった畑をお借りして様々な野菜を作り販売しています。「化学肥料や農薬を使わずに、廃菌床や生ゴミを活用する資源循環型農業を行い、安心安全な野菜作り」に取り組んでおられます。

昼食を兼ねて、1学期にお話を伺った「働き教育センター」にお邪魔しました。A型・B型・就労移行の多機能型事業所です。

ここでは、3つの班に分かれて見学をしました。それぞれの班に、働き教育センターの利用者の方（本校卒業生を含めて）に付いていただき、説明をいただきました。どの方も落ち着いて丁寧に案内をされていました（かなり緊張をしていたようですが・・・）。

（写真6）の右端に立って写っている方が利



ラ・メールの前で参加者撮影（写真5）

用者の方です。「メイク」授業の場面を説明いただきました。「社会人としてふさわしいメイクとは・・・」を学びながら実際にお化粧をされていました（女性のみです）。（写真7）こちら向きに写っている方が、本校の卒業生です。「農作業」の説明をしていただきました。



メイクの授業（写真6）

昼食は喫茶ラ・メールでいただきました。自家製のブルーベリーケーキやムースを追加で注文されている方もおられました。

昼食後に利用者の方（写真8 奥で立っておら



利用者の方からの農作業の説明（写真7）



利用者の声を聞く（写真8）

仕事に就きたい」「人のために役に立てるような仕事をする事」等・・・お話がありました。

れる5名）から発表がありました。

「センターでしている仕事は何か」「好きな仕事は何か。苦手な仕事は何か」「(余暇で) たのしみなことは何か」「将来の夢は何か」等を、順番に発表していただきました。

答えの中で「みんなでいることが楽しい」「好きなことは調理」、将来の夢は「一般就労をしたい。お給料をもらって、好きな服を買いたい」「清掃の仕事に就きたい」「人のために役に立てるような仕事をする事」等・・・お話がありました。

センターへの質問として、定員のことやどれくらいかけて就労するのか、等が出されました。回答としては「定員的には、A型、B型、移行とも空きはある。就労して、うまくいかなかった場合は戻ってきて、改めて訓練を受けても良い」「就労するのは人によってさまざま。何回も実習をして決まってくる人もたくさんいる」ということでした。

午後からは「伊香立の杜」へお邪魔しました。伊香立の杜は、①生活介護事業所「木輝（ここ）」（写真9）、②グループホーム（4棟）（写真10）、③ショートステイ棟（写真11）があります。施設見学は3つの班に分かれて、順番に回りました。



生活介護「木輝」(写真9)

生活介護「木輝」(写真9)は、伊香立の自然豊かな木々のように、利用者一人ひとりの笑顔が輝くところになればという思いから名付けられた)は40名定員の生活介護事業所で、1F2つ、2F2つの計4つのグループに分かれて活動をされています。一人ひとりのペースや得意なこと等を考慮してグループを分けています。

グループホームは4つに分かれています。(写真10)の右側が男性用のホーム、左側が女性用のホームです。(別棟2階建てホームに2グループ)。基本的に木輝に通われている方が住まれています。居室はその人の好みに合わせてられています。物が多く置かれている部屋もあれば、ほとんど置かれていない部屋もありました。

行動障害や自閉症の方が多くいることもあり、できるだけ刺激が少ないように物は少なめです。男性棟には冷蔵庫

「木輝」(伊香立の自然豊かな木々のように、利用者一人ひとりの笑顔が輝くところになればという思いから名付けられた)は40名定員の生活介護事業所で、1F2つ、2F2つの計4つのグループに分かれて活動をされています。一人ひとりのペースや得意なこと等を考慮してグループを分けています。

グループホームは4つに分かれています。(写真10)

の右側が男性用のホーム、左側が女性用のホームです。



グループホーム棟(写真10)

が置かれていません(気にならなうように)。お風呂やトイレについても、介助がしやすいように広く作られています。

ショートステイ棟には12歳から60歳くらいの方の利用があります。グループホーム棟もそうですが、清潔にはとても気を遣われています。掃除は丁寧に行われ、換気も欠かしません。

TVはトラブルの原因になりやすいため、チャンネルは2CHに固定され、



ショートステイ棟(写真11)

見られる時間も決まっています。

ショートステイ棟ですが、すでに5年間おられる方もいるようようです。(他に行ける施設がないのです・・・)。

社会福祉法人 大津福祉会として「障害のある人やお年寄りが、地域の中で安心して働き暮らせるように取り組む」「障害の種別や軽重に関わりなく、一人ひとりが大切にされる取り組み」を進めることを目指しておられます。



ショートステイ棟の見学の様子(写真12)